令和4年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：10月27日（木）
会　場：十日市コミュニティセンター
参加者数：27人

参加者の発言	市の発言	備考
・市政懇談会が3年ぶりに開催されることに感謝している。議会では，担当部長が答弁されることが多いが，本日は市長の考えを聞きたい。 ・これからのまちづくりには不安がある。人口減少が重要な課題で，合併時の6万人から今年4月には5万人を切り，十日市地区でも1万人を切った。また，高齢化も進行している。誰もが，住んでよかった，これからも住み続けたい地域を望んでいるが，担い手の減少が問題である。働き方改革により，労働年齢も上がっているが，まちづくりに取り組む人を確保することが難しくなっている。そこで，担い手づくりに早急に取り組むべきである。人材バンク等のように，地域からの募集や推薦などを行い，担い手育成計画を立てることによって，実行力のある人材を確保できるのではないか。市が中心となり，地域と一緒に，計画を立てて実施することが大事である。	・議会での発言は，組織として決定したことを部長や副市長，市長が答弁するものである。組織力を上げるためにも，担当部長が答弁している場合もある。今後の議会についても，組織としての対応を行うとともに，できる限り私も答弁するように努めていきたい。 ・自治連合会や市内の様々な団体において，担い手の育成は大きな課題の一つである。まちづくりに興味がある，あるいは，ボランティアをしたいと思っている人を顕在化させることが重要である。市内においては，一人の方に地域での役割が重複してしまう現状があり，今後，人材を地道に発掘し，地域の皆さんから，経験ある方々のデータをしっかりと集めることが求められる。地域で郷土愛を持った人を育成することが重要であり，シビックプライドを持つ皆さんを増やしていく取組を，今後もしっかり展開していきたい。	
・地域の宝を守り，発展させていくことが重要である。例えば，県内外から多くの方々が訪れる「霧の海」の利活用のため，駐車場までの道路は狭く，離合が難しいことから，安心して行けるような道路改修が必要である。同時に，満足度を上げるため，臨時のコーヒー店舗を出すなどの取組も必要である。三次の自慢を大事に育ててほしい。 ・三次人形について後継者の問題があり，鮎寿司の事業者は閉店した。歴史的に見ても，三次の自慢であり，これらの継承が必要であることから，県内外に発信し，体験教室などを開催し，若い人や定年の人たちの興味・関心を広げ，人材を見つけなければならない。三次人形や鮎寿司のつくり方などを教えられる人がまだおられることから，計画を立て，実施してはどうか。 ・「住んでよかった，これからも住み続けたいまち」とは，十日市自治連合会のスローガンである「元気　安心　すてきに過ごせる十日市」である。そのためには，行政と市民の対話が重要である。そして，何よりも，市職員の皆さんの，三次市への愛情と市民への寄り添いが大事である。	・霧の海を生かすための取組を進めている。具体的には，展望台にライブカメラを設置するとともに，どこからどのような人が訪れているのか調査するためのカメラも設置して，データを蓄積している。蓄積したデータを生かして，コーヒー等を提供するタイミングなど，来てよかったと感じてもらえるおもてなしの方法を練っていきたい。また，カメラは，三次市内の他の観光スポットにも設置しており，人の流れを可視化しながら，観光振興に結びつけていきたい。また，駐車場の整備など，来訪される皆さんに安心してもらえるような環境の整備を行っていく。 ・三次人形の活用について，先代には，色づけなどの体験ができないかと提案していた。提案に対する考えを伺う前にお亡くなりになった。まずは三次人形を継承してこられた方々のお気持ちを尊重しつつ，新たな取組につなげていきたい。市では，この伝統を絶やしてはならないという気持ちで，順序を踏みながら取り組んでいる。三次人形の活かし方について，皆さんからのアイディアもいただきたい。鮎寿司についても，本市の伝統であり，今，教える人がおられるうちに取り組まなければならない。様々な継承の仕方があり，例えば，食育推進協議会の皆さんや諸団体の皆さんと連携して，三次の食文化を継承していくこともできるのではないか。	
3年前の市政懇談会で出された市民の意見がどのように反映されているのか，ホームページなどに掲載されていない。また，これまで開催された他会場の意見を提示することはできないのか。提示された方が，それに対する具体的な意見が出てくると思う。	3年前の市政懇談会で出された意見について，会場で回答できるものは回答させていただき，回答できないものは，後日，質問者に直接お返しをしている。全体的な議事録は，市ホームページに掲載し，今後の施策の参考にしている。19地区の自治組織単位のまちづくりトークだけではなく，子育て中の皆さんや，農業者の皆さん，移住者の皆さんとの対話など，分野別のまちづくりトークも実施している。それぞれの世代の皆さんが何を感じておられるのか聞かせていただいた。去年と一昨年は，地域住民の皆さんとのまちづくりトークができなかったが，少人数での対話の機会を設けるとともに，移住者懇談会を開催した地域もある。移住者は，外からの新たな視点で，色々なことを感じられている。今回の形式等を当たり前とせず，改善しながら，市民の皆さんとの対話の機会をもたせていただき，今後の三次の元気づくりを模索していきたい。	

令和4年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：10月27日（木）
会　場：十日市コミュニティセンター
参加者数：27人

参加者の発言	市の発言	備考
・仕事の関係で，三次市に来たばかりである。飲食店に魅力的なものが多い印象であり，今後，他にも知っていきたい。鉄道やバスが好きであり，その施策に興味がある。地域の声を聞きながら，人の流れに関するデータに基づいて，鉄道にこだわらず，バスなどを活用して，持続可能な地域公共交通を構築してほしい。 ・現在，CCプラザが解体されており，ショッピングモールはサングリーンしかない。買い物の選択肢は多い方がいいと思うが，スーパーは，広島市にある全国チェーンのスーパーがなく，選択肢が狭すぎる。	・公共交通政策について，本市は車社会と言えるが，利用者だけではなく，バスや鉄道を地域みんなで支えていくことが求められている。JRと，具体的な利用者数を把握し，利用者を増やすための検討を進めている。例えば，JRと高速バスを活用した切符である「バス＆レール　どっちも割きっぷ」は好評である。通常は競合関係にあると思われる企業が協力している事業であり，コロナ禍であるからこそ誕生したと言える。芸備線を利用して本市に来ていただいた方へ地域藩札を配布するなど，外からの購買意欲を三次市に向ける取組も行っている。また，職員もできる限り，公共交通を利用して出張するような取組をしている。観光面だけでは持続可能なものにならないことから，日常利用を増やす取組を進め，地域全体で支える，利用するという意識を今後も広げていきたい。11月12日に，JR列車に自転車も積み込む「サイクルトレイン」を実証実験する。すでに定員に達している状況である。皆さんから，地域公共交通を支える手段について提言いただく中で，挑戦しながら，持続可能なものにしていきたい。 ・商業施設は，広島市と比較したら少ないが，商工会議所などと連携しながら，市街地の活性化に向けた取組を継続していく。チーズ，和牛，ワインなどの三次市の強みや特性を生かし，多くの人に本市に訪れていただき，関係する人を増やしていきたい。	
・子どもたちに，「新しくなってよかった」，「美味しい」と言われる給食調理場にしてほしい。また，アレルギーについては，一人ひとりに対応してほしい。 ・十日市小学校の校舎が老朽化しており，建替えを進めると聞いた。十日市中学校と十日市小学校を一貫校にしていくのか。親水公園の河川敷グラウンドが，毎年，大雨で浸水しており，部活動に弊害が出ている。グラウンドを新設するなど，市はどう考えているのか。	・給食共同調理場は，来年9月からの供用開始に向けて建設中であり，運営面について協議を行っている。現在，6つの調理場で実施しているアレルギー対応を1箇所にするが，安全を第一優先に考え，どのように対応していくのか協議している。安全・安心な給食を提供できる調理場にしていく。 ・十日市小学校と十日市中学校の校舎は，市内の小・中学校の中でも施設の健全度の数値が低い状況にある。現在，三次小学校を建て替えるための設計業者も決まった。これから，どのような学校を作るのか，地域の皆さんや関係者の皆さんからご意見をいただきながら，基本設計，実施設計と進めていく。現時点でどのように整備していくのか，まだ方針は固まっていない。引き続き，皆さんに説明させていただきたい。	
地域包括支援センターみよしの運営が，三次市社会福祉協議会に統合されると聞いた。市民は，今までと変わりなく，利用することができるのか。	三次市社会福祉協議会に委託をしていくことになるが，地域包括支援センターみよしが担っている支援すべき方の調査やプラン作成，あるいは様々な相談事業などは維持していかなければならない。委託事業は，市が事業主体であり，三次市社会福祉協議会が受託し，市の考えに沿いながら事業を進めていくことになる。今までの事業をしっかりと継続していくことを，関係者の方に説明するとともに，議会においても説明しているので，安心いただきたい。	

令和4年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：10月27日（木）
会　場：十日市コミュニティセンター
参加者数：27人

参加者の発言	市の発言	備考
・昭和47年水害では，十日市側では2箇所決壊し，浸水被害が生じた。また，平成30年には，ポンプ場の不具合もあり，畠敷・願万寺地区などが浸水した。ハザードマップを確認すると，十日市地区は，浸水区域に指定されている。市民の命と財産を守るための手立てや計画はあるのか。 ・消防署が林業試験場に移転される計画について，それよりもまずは浸水しない手立てを講じる必要があるのではないか。消防署の高台への移転は再検討される必要がある。高台に移転することにより，救急対応等が遅れるのではないか。消防機能を移転した後，十日市地区のまちを守るための政策をどのように考えているのか。市民の生命と財産を守ることが行政の使命である。	・十日市地区の都市機能を守るため，国土交通省に対して，河川の堆積土砂の継続的な撤去について，積極的な要望を行っている。計画的な浚渫工事を行うなど，河川断面を増やし，オーバーフローしないような取組を実施している。十日市地区の市街地に浸水被害がないように，できる限りの対応を行っていく。 ・消防署について，移転という方針を示したが，今後，林業試験場の地質調査や，県との購入交渉などの段階を踏んで，消防本部と三次消防署をどこに設置するのが適正か，議論していく。消防本部については，本市だけの財産ではなく，備北地区消防組合として，庄原市と三次市が負担金を出し合って運営している。庄原市との協議，連携が不可欠である。限られた資源と財源の中で，お互いがお金を出し合って運営することにより，運営コストを低く抑え，今日の救急や消防業務につながっているというような側面もある。庄原市の立場を尊重しながら進めていくことが，管理者としての責務と考えている。消防組合でも，消防本部・三次消防署を浸水想定区域ではない場所に移転させることが望ましいという方向性を示している。地域の皆さんの声を聞かせてもらいながら，事業を進めていきたい。広域的なエリアを災害から守る，あるいは救急搬送しなければいけないという視点に立って，整備計画を進めている。	
JRに関しては，第3セクターをつくるべきである。今後，観光業界が復活してくると，国内外の観光客が，JRの列車を使って色々な観光ルートをつくることが可能となる。そこで，少し贅沢さを感じる列車などの導入を進める，Wi-Fiを設置し，通勤途中で仕事をする，動画を見ることができるようにするのはどうか。	地域公共交通について，インバウンドを見据えることは大事なことである。特に今，円安によって観光業界には大きな追い風になっており，外国人が訪れる機会が増えてくるかもしれない。外国人に来てもらえる体制を整えていくことも大切であり，取組を進めていく。	
十日市小学校を早く整備してほしい。クラブ活動で使用する施設などは，3，4か月では復旧できない。これでは部活がなかなか進まないし，みよし運動公園などに連れていく保護者の負担も大きい。運動場の整備などに時間がかかるということであれば，粟屋町側に近い場所に中学校の校舎を建てる方がいいのではないか。	学校の建替えについては，まだ構想の前段階である。教育機関としてあるべき姿をみんなでしっかりと考える機会や，意見集約させていただく機会を作らせていただきながら，地域の皆さんと一緒に作っていきたい。	